

レンドリースは、今年も「ラン & ライス」で社会貢献活動を実施しました。

(2022年11月25日):レンドリースの「コミュニティ・デイ」は、従業員主導型の社会貢献活動です。レンドリース・グループ全体で1996年から毎年実施しており、今年で27年目を迎えます。従業員が慈善活動を通じて地域社会と積極的にかかわりを持ってほしいという創業者の思いから、従業員が持つ経験とスキルを活かし、事業を営む地域社会への恩返しと貢献を目的として行っています。

昨年に引き続き、子どもの食支援、コメ余り、そして従業員のウェルビーイングという、社会的な課題を複合的に支援する活動を行いました。

子どもの食支援

日本では7人に1人の子どもが貧困状態にあるとされ¹、特にひとり親世帯の子どもの貧困率は48.3%で、約2人に一人と言われています²。そのような家庭での最も大きな問題の一つは、子どもの食事情が挙げられています。

コメ余り

日本の主食用米の需要は、食生活の変化や人口減少の影響で右肩下がりとなっています。こうした中、需要に見合った生産が求められ、お米の生産量の減少が続いています。

従業員のウェルビーイング

働き方改革や新型コロナウイルス感染症の影響により、場所や時間にとらわれない働き方が定着しました。そのような職場環境において、企業が従業員の身体的、精神的、社会的に良好な状態である「ウェルビーイング」に関心を寄せています。運動はそのウェルビーイングの基盤となるものです。

このような状況を鑑み、当社では、従業員やその家族が行った運動量に応じて、東日本大震災以降長らくボランティア活動を行った宮城県南三陸町の農家さんが生産したお米を、子どもの食支援となるよう寄付することを目標に、「ラン & ライス」という社会貢献活動を昨年実施しました。今年も、新型コロナウイルスへの感染リスクを低減するため集団での活動を控え、また社内からもその参加のしやすさから再度実施してほしいという声も多く、引き続き実施することになりました。

実施期間は、10月3日(月)から10月16日(月)までの14日間で、延べ270人がプログラムに参加し、寄付するお米の総量は昨年より1,000kg多い2,500kgを達成しました。寄付する2,500kgのお米は、認定NPOフローレンスおよび認定NPOグッドネーバーズ・ジャパンを通じてひとり親世帯に届けられる予定です。

このプログラムに参加した従業員は、通勤途中、出張先、自宅の周辺で、それぞれのペースで運動し、その瞬間を写真に切り取り、社内共有サイトに投稿しました。コロナ禍による長期間のリモートワークにより、リアルなコミュニケーションの重要性を再認識する中で、従業員間の一層のコミュニケーションを促し、会社全体の連帯感を感じられるイベントとなりました。

¹ 2018年厚生労働省発表の国民生活基礎調査による

² 2019年国民生活基礎調査による

当社のパーパス(存在意義)は「未来のために、持続可能な価値を生む場所を創造します。」です。持続可能な社会の発展のための社会貢献活動を推進しており、「2025年までに2億5,000万豪ドル(約235億円³)の社会的価値の創造」を目標としています。2022年度末時点で、約1億73万豪ドル(約100億円)の社会的価値を創造しました。

詳細については、以下担当者にお問い合わせください。

青根 静
コーポレート・アフェア
マネジャー
080-3578-3971
shizuka.aone@lendlease.com

About Lendlease:

レンドリースは、国際的な不動産グループです。街づくりや結びつきの強い地域社会を創造するエキスパートです。

当社のパーパス(存在意義)は、「未来のために、持続可能な価値を生む場所を創造します」です。

オーストラリア・シドニーに本社を置き、オーストラリア証券取引所に上場しています。オーストラリア、アジア、ヨーロッパ、アメリカに拠点を置き、世界で約8,500人の社員を擁する企業です。

当社の強みは、不動産開発、投資そして建設の事業セグメントに表れています。詳細については、ウェブサイトをご覧ください。 www.lendlease.com

³ 1豪ドル≒94円換算

